

きょういく・さど



令和6年7月18日
佐渡市教育委員会
学校教育課

子ども主体の学級づくりに向けて

佐渡総合教育センター長 濱崎 賢一

1学期が間もなく終わり、夏休みを迎える時期となりました。先生方におかれましては、少し落ち着ける時期になるかと思います。

さて、1学期の各学級の様子はいかがだったでしょうか。各学校では、授業改善を中心に据えた学力向上、いじめや不登校の未然防止に向けて、「学級経営の充実」を図ってこられたことと思います。当センターでは、今年度「学級学力向上研修」を2回実施します。6月の第1回研修では、愛知教育大学教育大学院の磯部征尊准教授から、子どもたちの自主性や創造性を尊重し、積極的に学びのプロセスに参加できる環境を整えるためのポイントとして、以下の点についてご指導いただきました。

- ①担任として、目指すべき学級の在り方
②「問題の発見(R)・確認(C)」に子どもの目を
③学級力の向上に向けた話し合い活動の充実

また、研修会に参加した先生方から次のような感想をいただきました。

- 子ども主体(中心)となる学級会ができるように、子どもたちの考えと教師のズレに気付けるようにしたい。
- モグラたたきではなく、子どもと教師が二人三脚になれるファシリテーターになりたい。
- 認めてくれる先生、見守ってくれる先生になれるようR-PDCAに取り組んで行きたい。
- 同調圧力では、いじめや不登校をまねく危険性が分かり、少数意見を大切にしていきたいと思った。

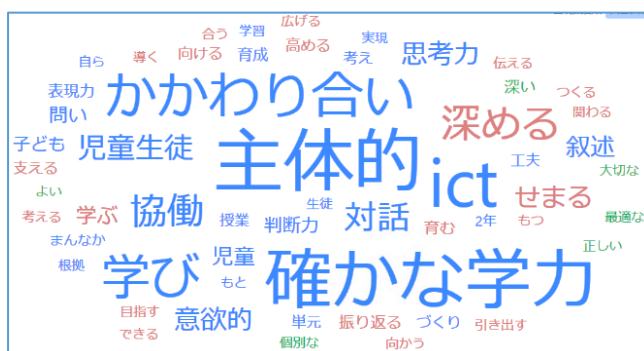
子どもたち主体の学級づくりに向けて、1学期の学級経営を振り返り、2学期のよりよいスタートにつなげていってください。

子どもまんなか授業の実現に向けて

下越教育事務所指導主事 北川 禎

予測困難で急激に変化する時代をたくましく
生き抜いていく子どもたちには、自分の力で考
え、選択・決定し、行動できる力に加えて、自分
の個性を発揮しながら、多様な人々と協働して
一つ一つの課題を解決する力を身に付けること
が求められています。

このような力を身に付けるために、各学校においては、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が行われていることと思います。以下に示したものは、今年度の佐渡市の全小中学校の研究（または研修）主題をテキストマイニングした結果です。



この結果からも、子どもが主体的に学びを進めていく授業、子どもが問いを立て、選択・決定した学びで解決を目指す授業に向けた取組が進められていることが分かります。そのような授業を下越教育事務所では「子どもまんなか授業」として推進しています。

今年度の学校訪問では、「子どもまんなか授業」の実現に向けた授業観の転換についてお話させていただいています。先日訪問させていただいた学校の先生からは、「指導していただき授業のモチベーションが上がりました。ぜひ2学期にもう一度指導をお願いします。」という話がありました。随時プロジェクト支援訪問を受け付けていますので、佐渡市内の学校全体で「子どもまんなか授業」の実現に向けて考えていきましょう。多様な教科・領域で相談していただけたらと思います。どうぞお気軽にご連絡ください。



子どもまんなか授業

下越教育事務所

子どもまんなか授業

下越教育事務所

ある実践から ～朝ご飯の話～

教育指導主事 水谷 武

小学校特別支援学級の担任、A先生のクラスには二人の兄弟が在籍しています。二人とも学習の途中でエネルギー切れのようになり、意欲が長続きしません。A先生は二人の実態を把握する中で、どうやら朝ご飯を食べてこないことが原因の一つであると考えました。しかし、家庭の事情などで早急な改善は期待できません。

「何とか朝ご飯を食べて登校してほしい！」そう考えたA先生は、毎日やり取りする連絡帳に、その日の二人の良い姿を記入して伝えるとともに、「お母さんのおかげです」と感謝の言葉で締めくくりにしました。

ある日、兄弟が朝お菓子を食べてきたことを知ったA先生は、連絡帳に二人のとびきり良い姿と「お母さんがお菓子を食べさせてくれたおかげです」と書き添えました。別の日にはバナナを食べてきたと聞き、「おかげでお子さんたちはこんな素敵な姿を見せてくれました」と伝えました。

次第にA先生の取組は実を結び、母親は忙しい中、週一日おにぎりを握るようになり、やがて二人の兄弟は、当たり前のように毎朝ご飯を食べる習慣が定着しました。それにつれて、学習面のみならず、生活面全般の充実につながっていったことは言うまでもありません。

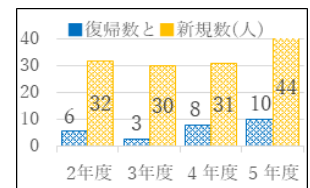
今年度も引き続き保護者等との良好な連携を基にした適切な実態把握をお願いします。そして、一人一人がやりがいを感じ意欲的に活動する姿を求め、適度な課題設定と有効な支援を大切にした実践を重ねていきましょう。

新たな不登校を生まない指導を

教育指導主事 名古屋瑞穂

令和5年度の文科省調査で、佐渡市の小中学校の不登校の児童生徒は94名でした。令和4年度から15名増加しました。令和4年度の全国の不登校児童生徒数が29万9千人を超えている状況で、千人当たりの不登校児童生徒数が、小学校中学校ともに全国・県レベルより低くおさえられていたことは、各学校のご努力の成果であると感謝しています。今後、全国の令和5年度の結果について、10月下旬頃に発表されると思いますが、昨年度の市内の増加傾向を見ると中学校は全国・県のレベルを超えることも予想されます。佐渡市では、全国に比して不登校の割合が低い状況を目指しています。

右のグラフからも分かるように、不登校になると学校に復帰することは、容易ではありません。



佐渡市不登校復帰数と新規数

休み始めてからでは、対応が遅いのが現実です。新規の不登校を生まないために「心の健康チェックアンケート」等を活用して多面的な児童生徒理解に努めください。そして、不適応の兆候を早期に把握して、適切なアセスメントを行い、教育相談を本人や保護者と積極的に進めてください。休み始めたら、校内教育支援センターでの対応や適応指導教室「あすなろ教室」や不登校訪問指導員の利用を検討して、SCや心の教室相談員、教職員等の教育相談体制や不登校の支援体制をつくりましょう。

今年度、佐渡市教育委員会は文部科学省からリーディングDXスクール事業の指定を受けており、研究指定校として内海府小・中学校が中心となって汎用的なソフトウェアとクラウド環境、生成AIの活用に関わる研究を進めています。今後、研究の成果を踏まえて、ICT活用に関わる有益な情報を市内で共有していきたいと思います。なお、本事業に関わって2学期に以下の講演会を予定しております。各校からの積極的なご参加をよろしくお願いします。

○日時：9月19日(木)

※後日、案内文書を出させていただきます。

○講師：上越教育大学 教授 清水雅之 様

○会場：未定

○内容：「ICTを活用した『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けた授業改善」